

ひらかわあらた
平川新

宮城県慶長使節船ミュージアム 伊達政宗の黒船／サン・ファン館 館長

未来への航路

「遠島」と「牡鹿郡」

慶長使節船の出帆のことを書いた記録には、「真山記」と「治家記録」の二つがあります。船の規模については、前回紹介したとおり、その寸尺は同じ内容になっていました。ところが異なる部分があったのです。大事な論点になっていきますので、その部分を紹介しておきます。いずれも『仙台市史慶長遣欧使節篇』に掲載されています。

「遠島」と「牡鹿郡」の両記事を見比べてみると、使節船の出帆地について「真山記」は「遠島月浦」ですが、「治家記録」では「牡鹿郡月浦」になっていました。月浦という地名は江戸時代の記録によると牡鹿半島の月浦であることが確認できます。「牡鹿郡月浦」のことです。

ところが、「真山記」には「遠島月浦」とあり、これは牡鹿郡の月浦ではないという意見が出されているのです。ではどこかというところ、雄勝湾だという主張なのです。でも雄勝湾は牡鹿郡ではなく、桃生郡に属していました。雄勝湾には月浦という浜もありま

せん。にもかかわらず、なぜ雄勝湾という説が出されているのでしょうか。それは雄勝湾も月浦と呼ばれていた、という意見があるからなのです。しかも「遠島」という地域には雄勝湾も含まれているということです。月浦は雄勝湾の月浦だという考え方が出されているのです。

「治家記録」の編纂にあたって藩は、家臣から膨大な文書を集めました。政宗からも「治家記録」の編纂に

上げました。藩政の動きを知ることができる代藩主綱村が儒学者・遊佐木斎に命じて編纂させた藩史です。元禄16年(1703年)に、伊達家4代(輝宗・政宗・忠宗・綱宗)の記録が完成しています。その後の藩主の記録も逐次編纂されて、最後の藩主である13代慶邦の巻(楽山公治家記の巻)は、1876年(明治9年)に完成しました。

「治家記録」の編纂に当たって藩は、家臣を自分の記録として書き残していたのです。政宗の動向も熟知していました。それ

39 遠島月浦と牡鹿郡月浦

「真山記」

〔慶長一八年〕八月十五日、遠島月浦ヨリ南蛮へ大船相立ラレ、支倉六右衛門頭トシテ、今泉令史、松木忠作

「治家記録」

〔慶長一八年九月〕此日南蛮国へ渡サル黒船、牡鹿郡月浦ヨリ発ス、支倉六右衛門常長并今泉令史、松木忠作

「牡鹿郡月浦」への異論

には「遠島月浦」とありますので、これは牡鹿郡の月浦ではないという意見が出されているのです。ではどこかというところ、雄勝湾だという主張なのです。でも雄勝湾は牡鹿郡ではなく、桃生郡に属していました。雄勝湾には月浦という浜もありま

せん。にもかかわらず、なぜ雄勝湾という説が出られているのでしょうか。それは雄勝湾も月浦と呼ばれていた、という意見があるからなのです。しかも「遠島」という地域には雄勝湾も含まれているということです。月浦は雄勝湾の月浦だという考え方が出されているのです。

「治家記録」の編纂にあたって藩は、家臣から膨大な文書を集めました。政宗からも「治家記録」の編纂に

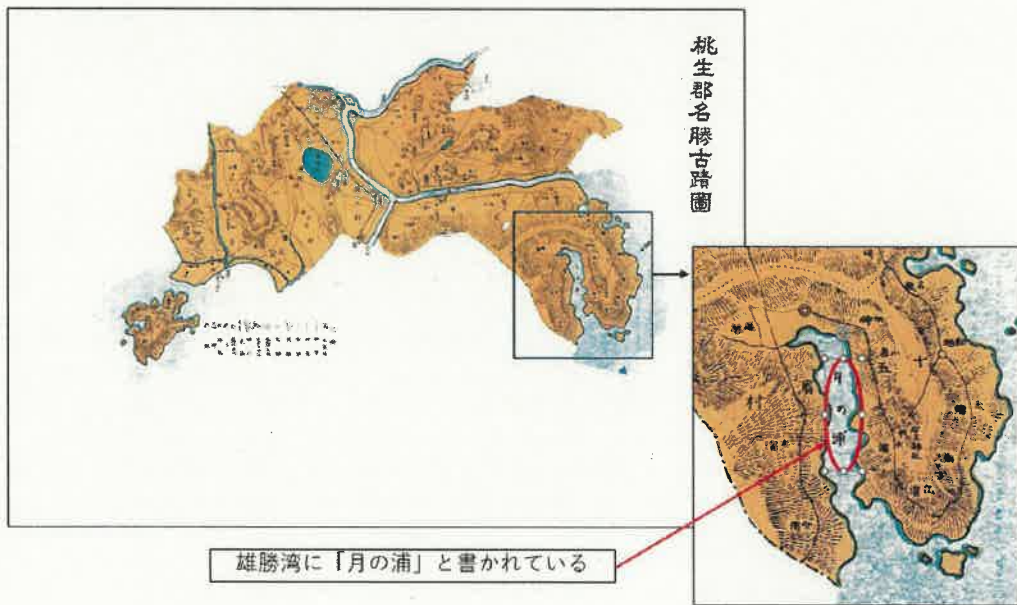
上げました。藩政の動きを知ることができる代藩主綱村が儒学者・遊佐木斎に命じて編纂させた藩史です。元禄16年(1703年)に、伊達家4代(輝宗・政宗・忠宗・綱宗)の記録が完成しています。その後の藩主の記録も逐次編纂されて、最後の藩主である13代慶邦の巻(楽山公治家記の巻)は、1876年(明治9年)に完成しました。

「治家記録」の編纂に当たって藩は、家臣を自分の記録として書き残していたのです。政宗の動向も熟知していました。それ

伊達家四代の「治家記録」の表紙(仙台市博物館HP)



『桃生郡誌』掲載の雄勝湾「月の浦」地図



雄勝湾に「月の浦」と書かれている



筆者略歴

昭和25年、福岡県出身。東北大学名誉教授。館長に就任した。

しかし「真山記」では「遠島月浦」だった文字が、「治家記録」では「牡鹿郡月浦」になっていました。根拠史料とは違う記述に

なりました。藩政の動きを知ることができる代藩主綱村が儒学者・遊佐木斎に命じて編纂させた藩史です。元禄16年(1703年)に、伊達家4代(輝宗・政宗・忠宗・綱宗)の記録が完成しています。その後の藩主の記録も逐次編纂されて、最後の藩主である13代慶邦の巻(楽山公治家記の巻)は、1876年(明治9年)に完成しました。

「治家記録」の編纂にあたって藩は、家臣を自分の記録として書き残していたのです。政宗の動向も熟知していました。それ

「治家記録」の編纂に当たって藩は、家臣を自分の記録として書き残していたのです。政宗の動向も熟知していました。それ

「治家記録」の編纂に当たって藩は、家臣を自分の記録として書き残していたのです。政宗の動向も熟知していました。それ

「治家記録」の編纂に当たって藩は、家臣を自分の記録として書き残していたのです。政宗の動向も熟知していました。それ